



伝統的な建物、独特の町並みの宿根木地区

また、販売戦略については、佐渡の企業、農林水産業、医療機関の皆さまと連携し、情報発信、販売促進、人材確保などにトップセールスとして自身が積極的に行動し、佐渡がワンチームとなり佐渡を売り込むことにより、経済の活性化を促してまいります。

### (3) 防災・減災で 安全安心な島づくり

ワードは「公共交通機関の利便性の向上と交通事業者の安定経営」と「販売戦略」であると考えております。

そのために必要なのは、佐渡空港の2,000メートル化や首都圏との直行便であると考えております。現在、既存の890メートルで就航を予定する新会社設立の動きもあると聞いておりますし、佐渡から首都圏への直行便の実現に向けて、今後新潟県と足並みを揃えて進めてまいります。また、空港2,000メートル化に向けても、地権者との交渉も引き続き真摯に取り組んでまいります。

昨今の異常気象については、我々の想定を超えているとしか言えない状況で、離島である佐渡市にとって、地震の脅威、記録的な大雨の頻発などへの備えとして、防災体制の強化は急務です。地震への対応として、港湾・空港の整備は救援物資の確保、避難体制の整備に極めて重要なことです。また、国道については、有事の際の緊急輸送道路に位置付けられているものの、大型緊急車両などがすれ違えない狭い未整備区間があり、早期の解消が喫緊の課題と認識しております。今後も引き続き国や新潟県と連携し、全力で防災インフラの整備に取り組んでまいります。

また、佐渡市地域防災計画に基づく、地域防災力の向上に対する取り組みは徹底的に進めなければなりません。自助、共助、公助の役割を明

確にし、高齢者支援などを含めた、常日ごろからの地域における訓練などを市民の皆さまと共に進めてまいります。

課題となっている本庁舎については、既存の庁舎を活用しながら、防災時に拠点となりうる庁舎整備が必要と考えております。併せて、本庁舎1階の窓口機能についても市民の皆さまから安心してお越しただけよう、市民の皆さまや議会からのご意見をいただき対応してまいります。



応急救護訓練の様子

### (4) 子どもから高齢者まで 市民が夢や希望のもてる島づくり

人口減少の大きな要因は少子化と高齢化であります。この2つの課題を克服するためには、人口減少のスピードを緩やかなものとしつつ、そこに暮らす子どもから高齢者までが生き活きと楽しく、希望がもてる環境を作る必要があると考えています。

そのためには、子育て支援の充実や日本一を目指す健康寿命の延伸、社会教育活動やスポーツ・文化への体験など、子どもから高齢者まで学び続けることのできる生涯学習などを拡充してまいります。

子育て支援については、移住定住支援策や若者定住支援策と組み合わせた施策の実施や、第三子目以降への支援制度の創設、雨天荒天時の屋内での子ども遊戯場所の確保、子どもスポーツ、文化活動への支援に取り組んでまいります。また、企業と連携した育児休暇の取得推進など、働きながら子育てができる環境整備に向けて、意見交換を進めてまいります。

健康寿命日本一の実現に向けては、農林水産業などの人手が不足している産業で元気な高齢者が活躍できるように、農業協同組合、漁業協同組合